

福岡県内の病院におけるジェネリック 医薬品の採用状況等調査について

福岡県保健医療介護部薬務課

○調査方法

対象病院：福岡県病院協会会員

調査方法：アンケート郵送

回収方法：郵送（返信用封筒同封）

調査期間：平成18年9月11日～10月10日

平成20年9月12日～10月10日

平成22年9月30日～10月29日

○回答率

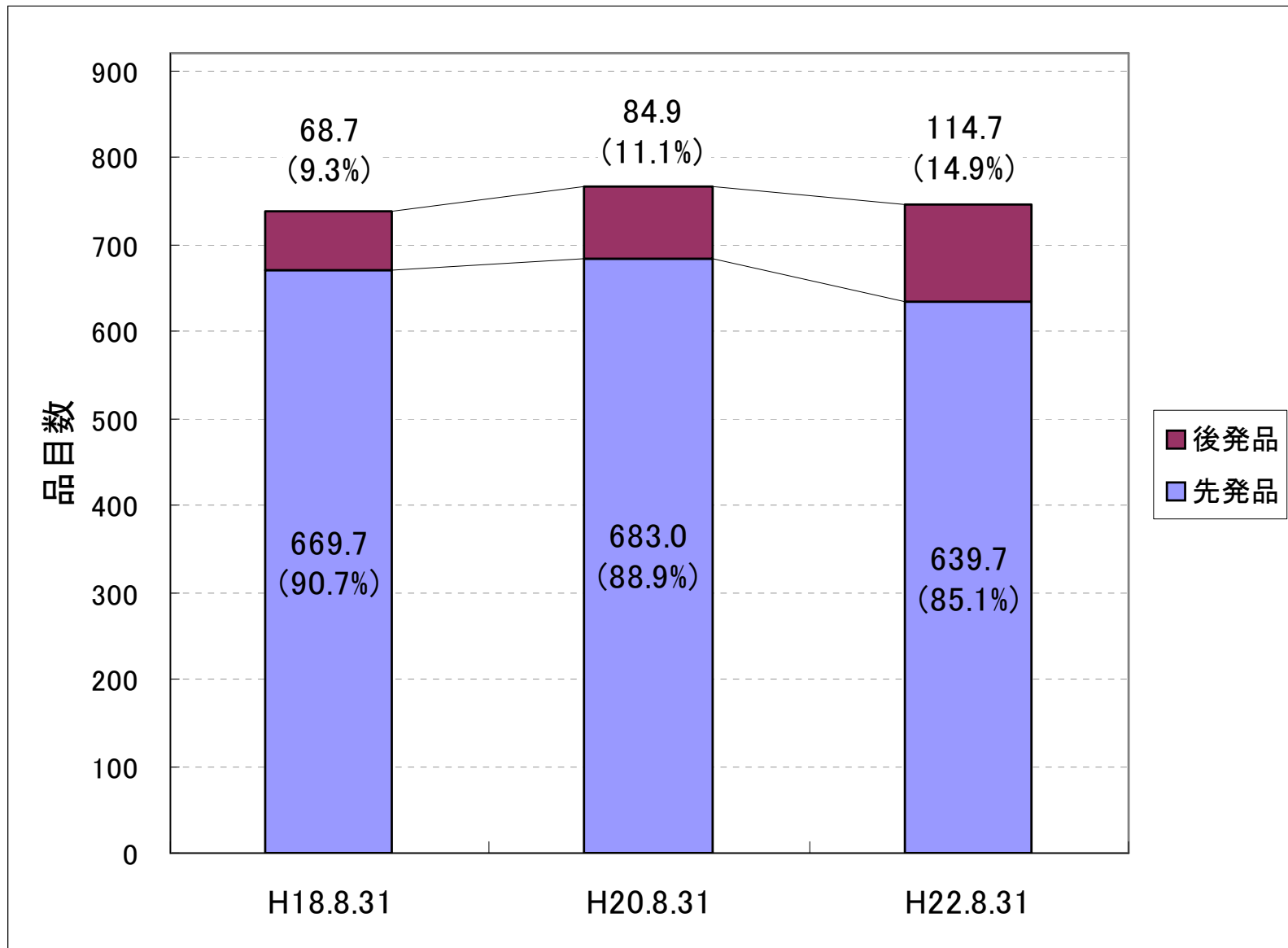
平成18年度：95.1%（232施設）

平成20年度：94.7%（231施設）

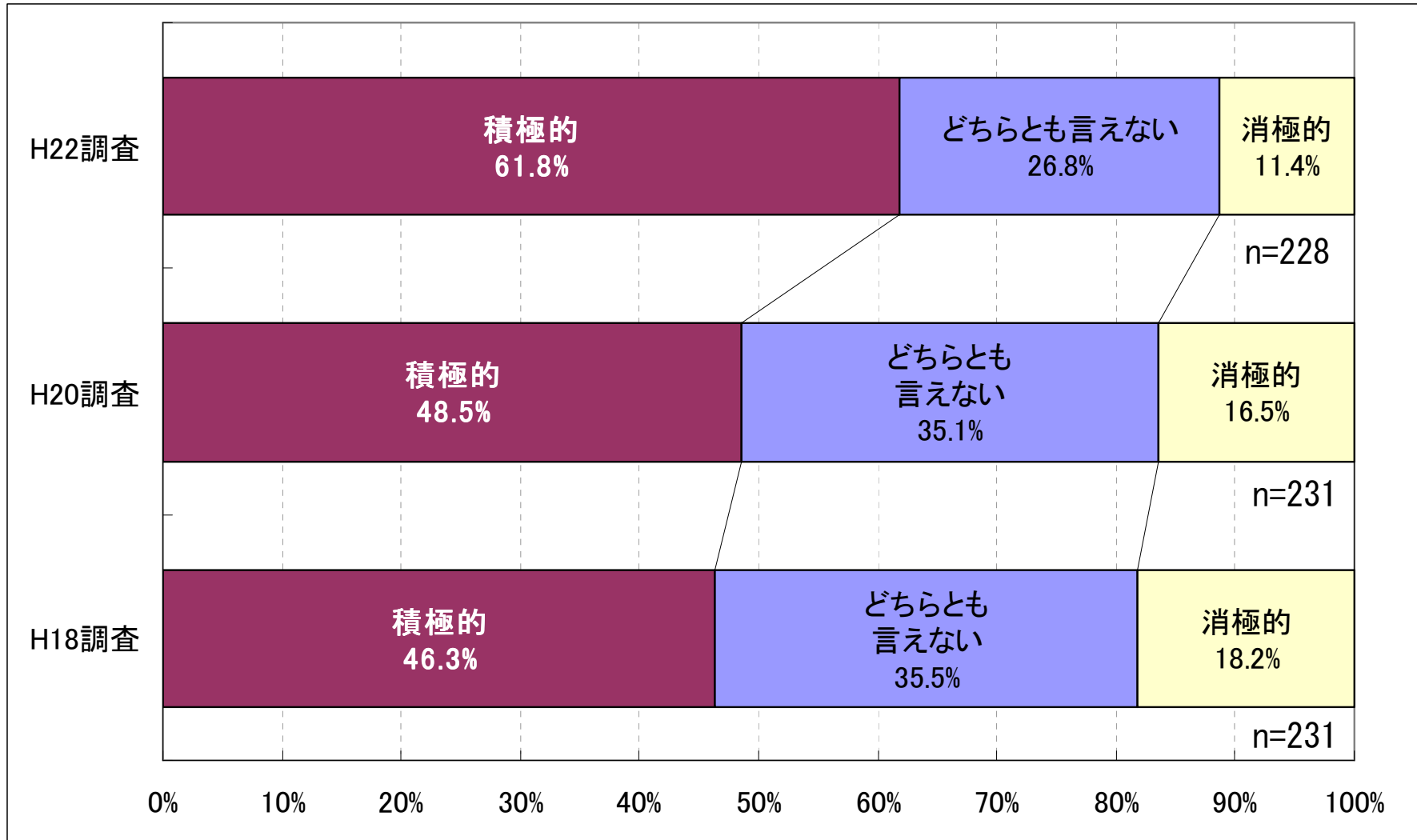
平成22年度：91.8%（228施設）

※結果については、過去の調査結果と比較できる事項は、併せて記載した。

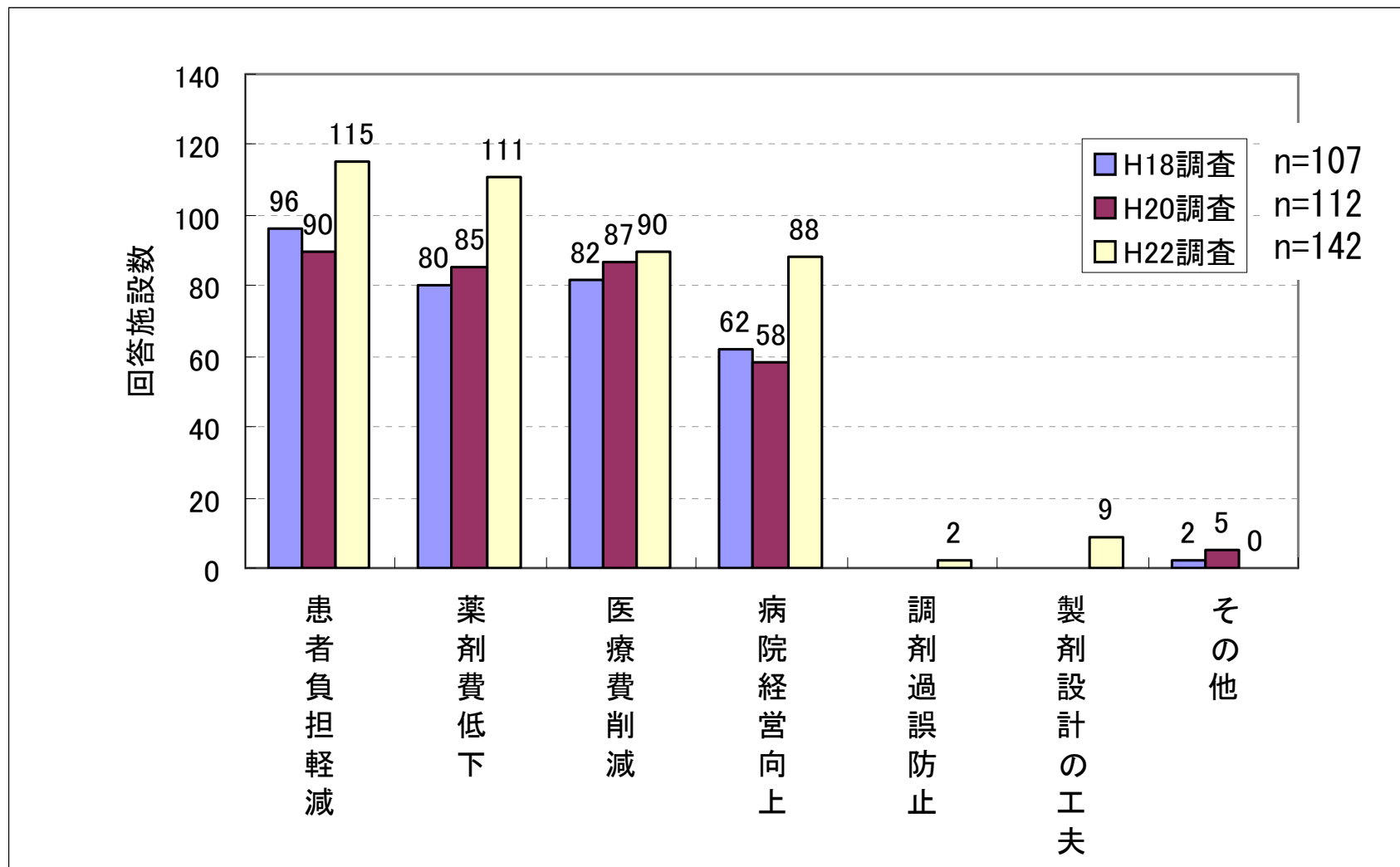
採用医薬品の品目数



ジェネリック医薬品の採用について

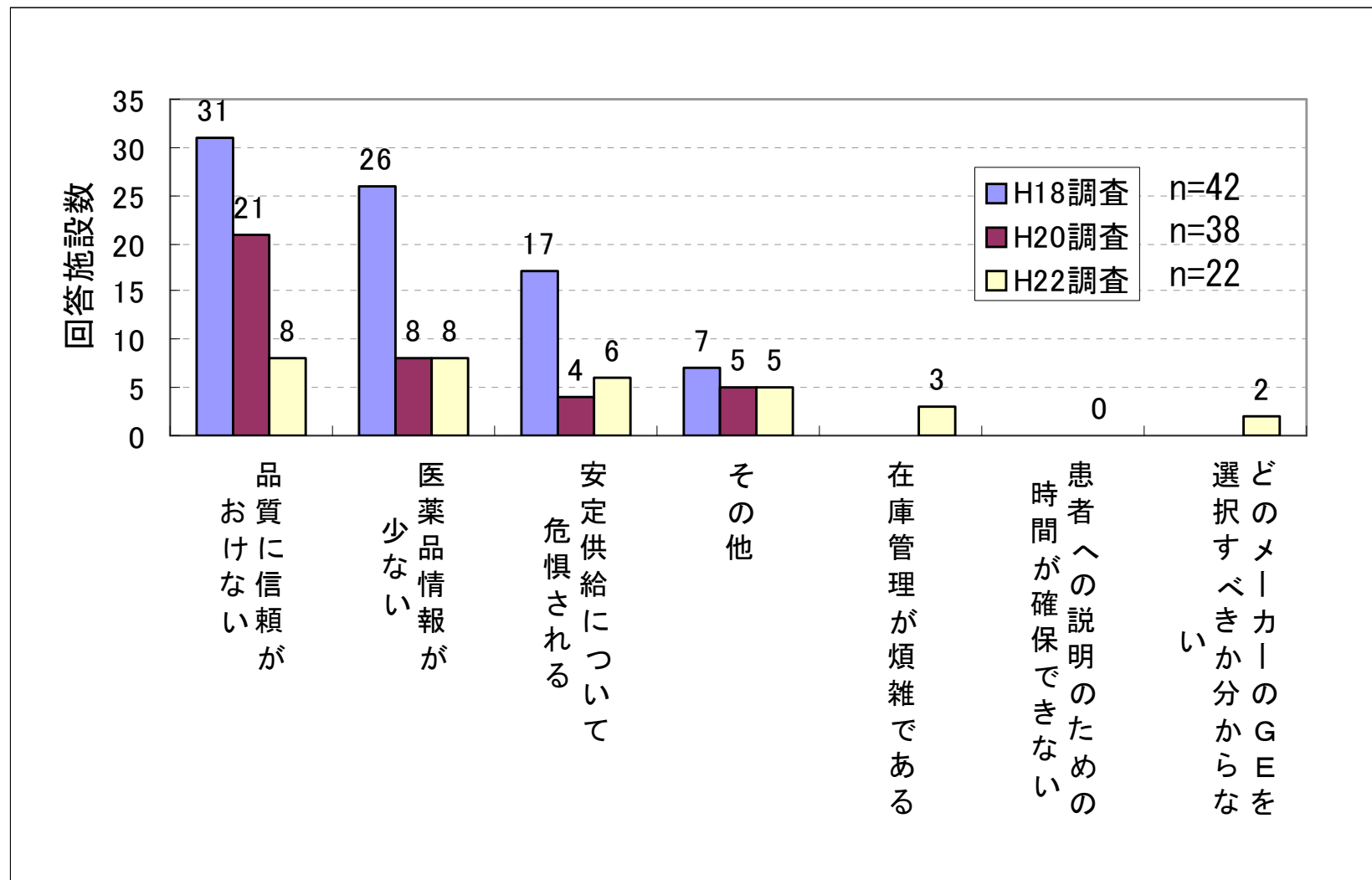


ジェネリック医薬品を積極的に採用する理由



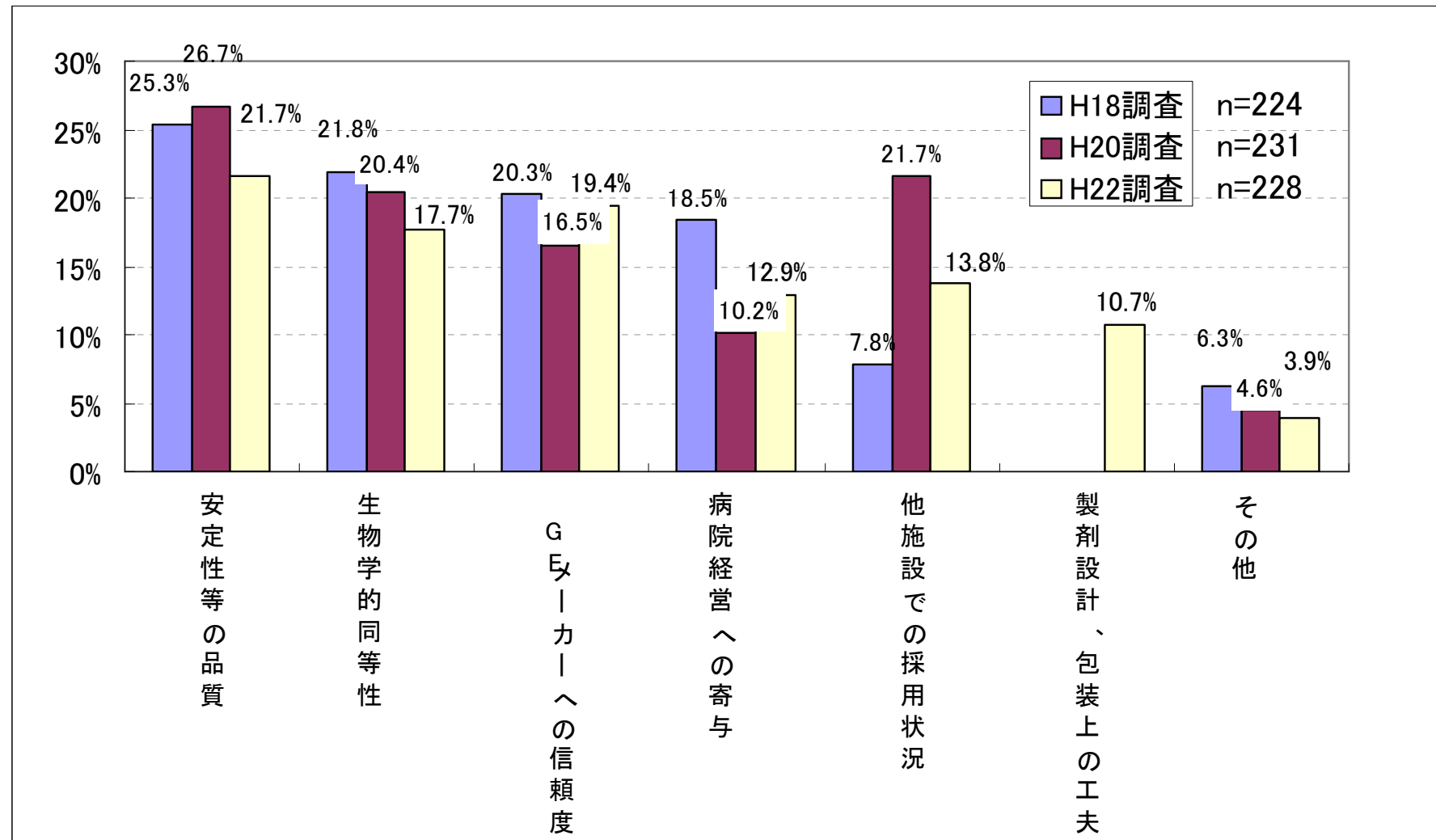
※複数回答

ジェネリック医薬品の採用に積極的でない理由



※複数回答

ジェネリック医薬品の採用時に重視する基準



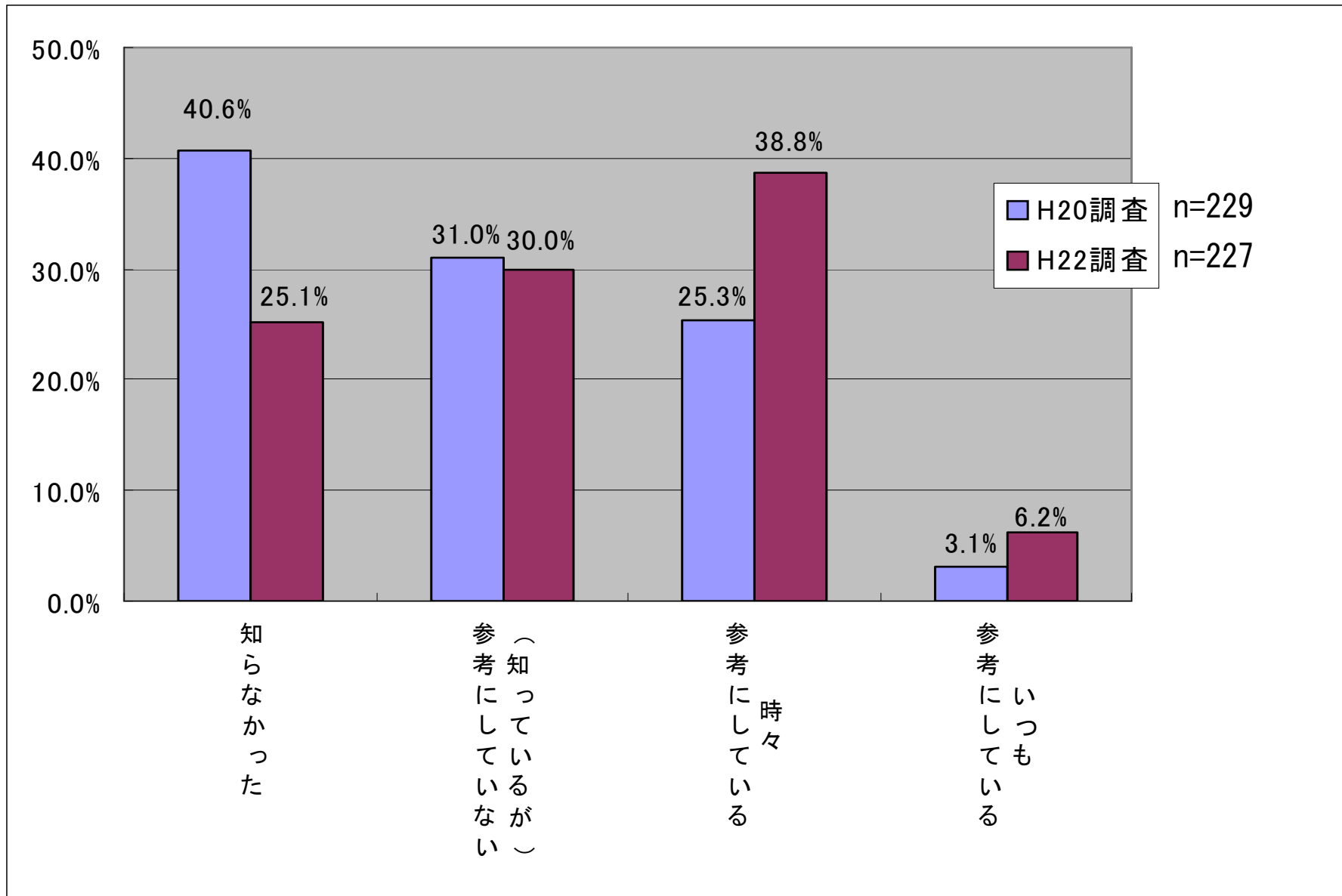
※複数回答

※ 1施設あたりの平均回答数 H18 : 2.92 H20 : 2.76 H22 : 3.24

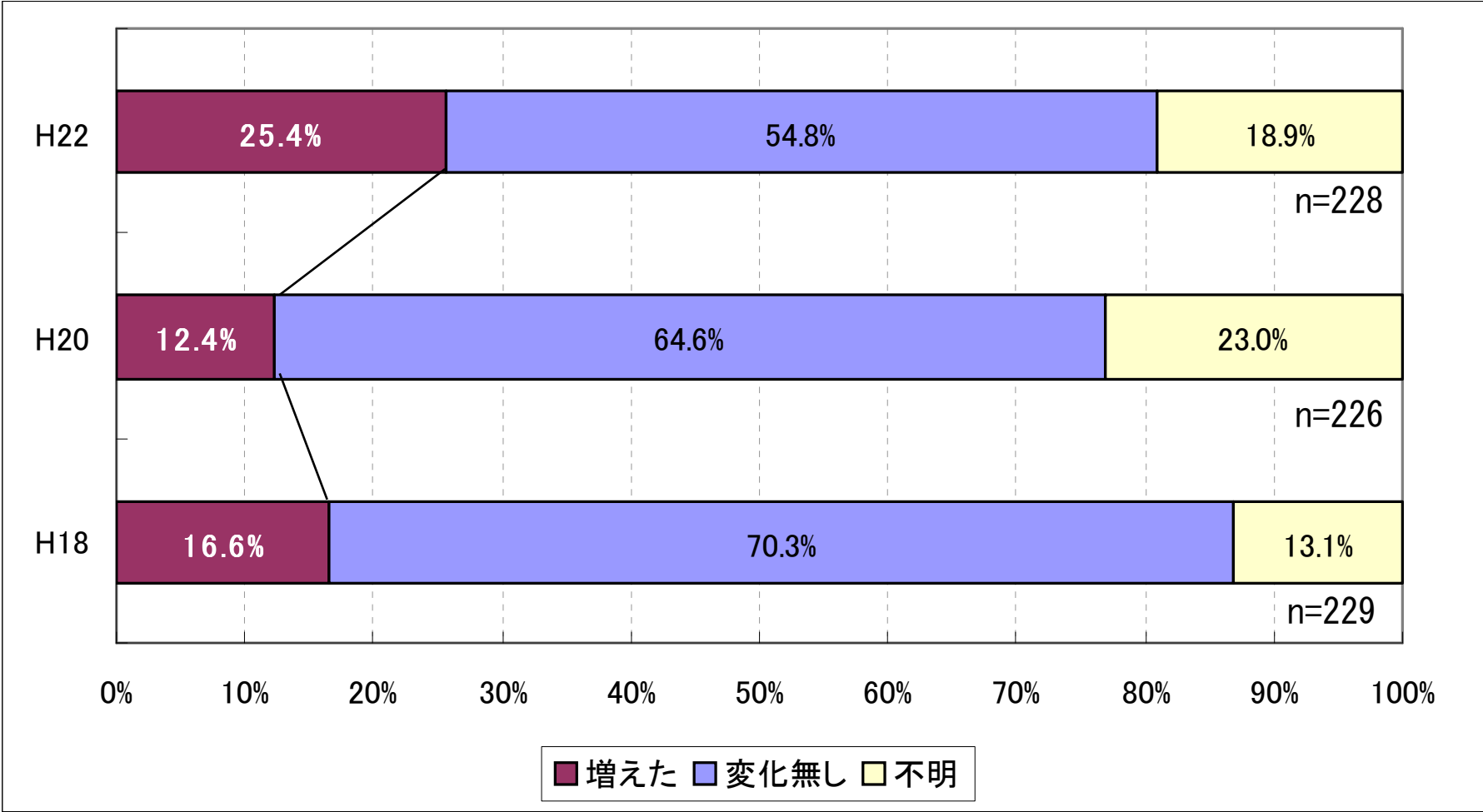
ジェネリック医薬品の採用時に重視する基準(その他)

- 安定供給
- 製品名(医療事故防止)
- 適応症
- 先発医薬品メーカーのGE
- トラブル発生時のメーカーの対応
- MRの来院頻度
- 製品の市場占有率

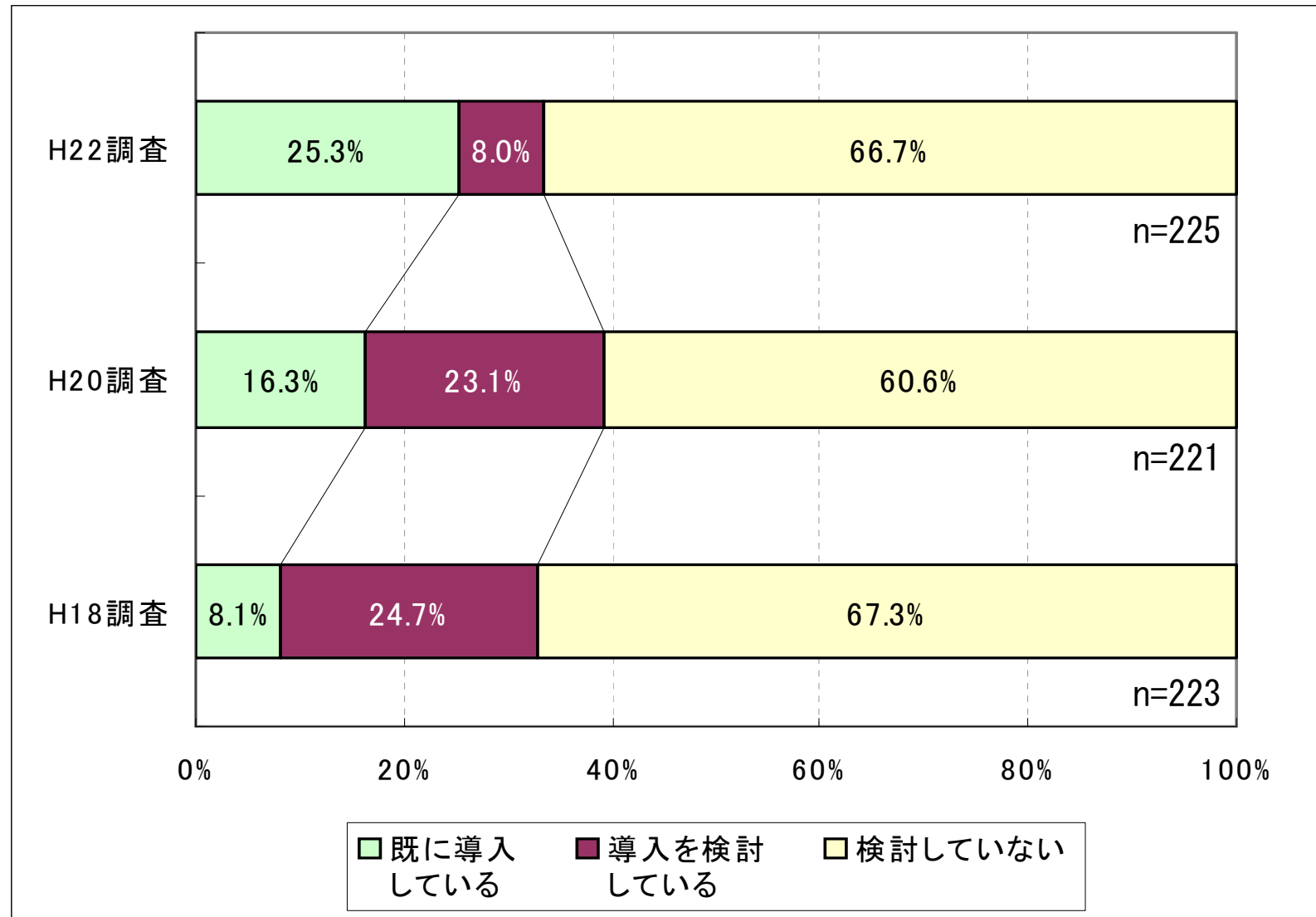
福岡県ジェネリック医薬品採用マニュアル等について



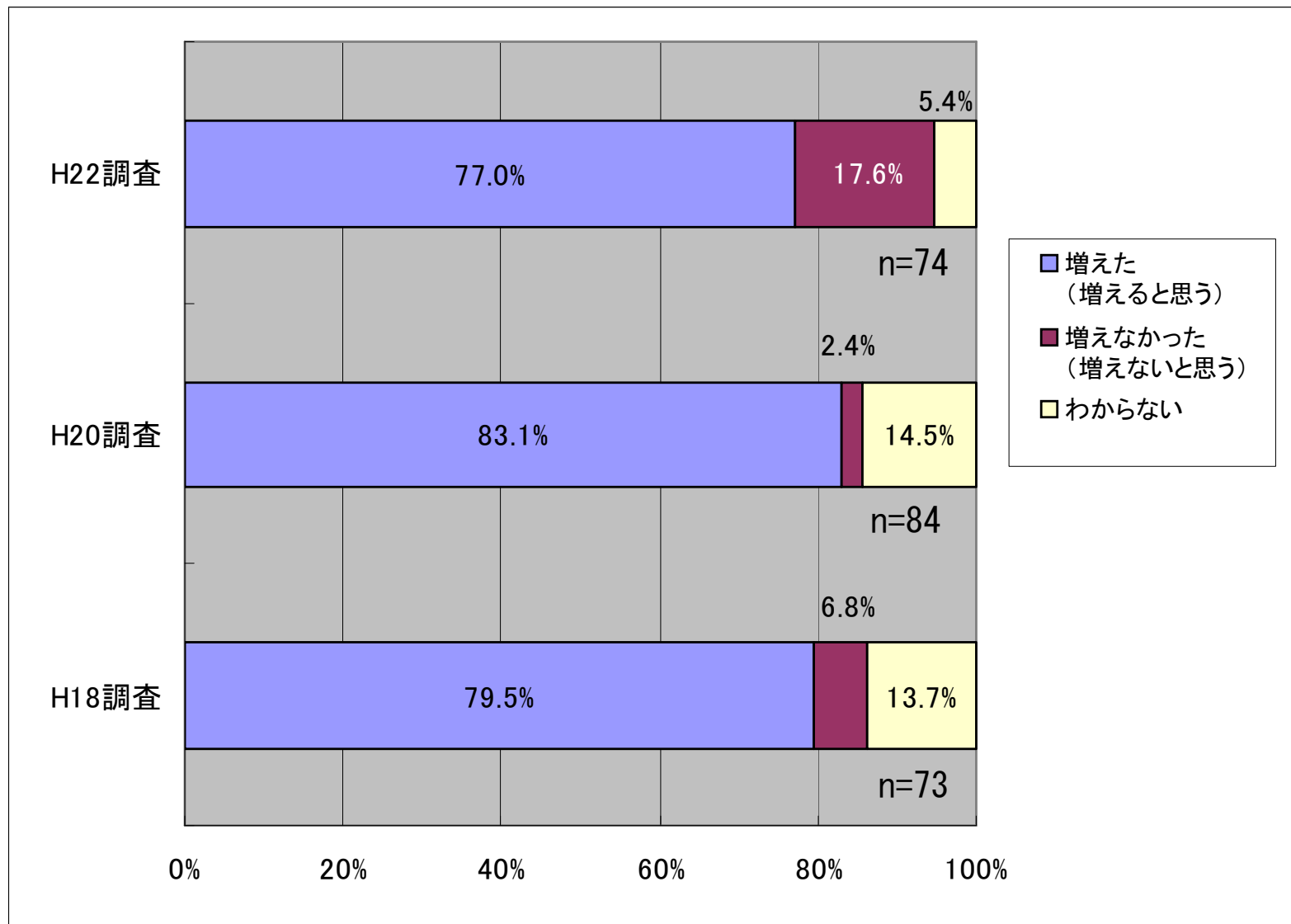
患者(院外処方を除く)からのGE処方の希望



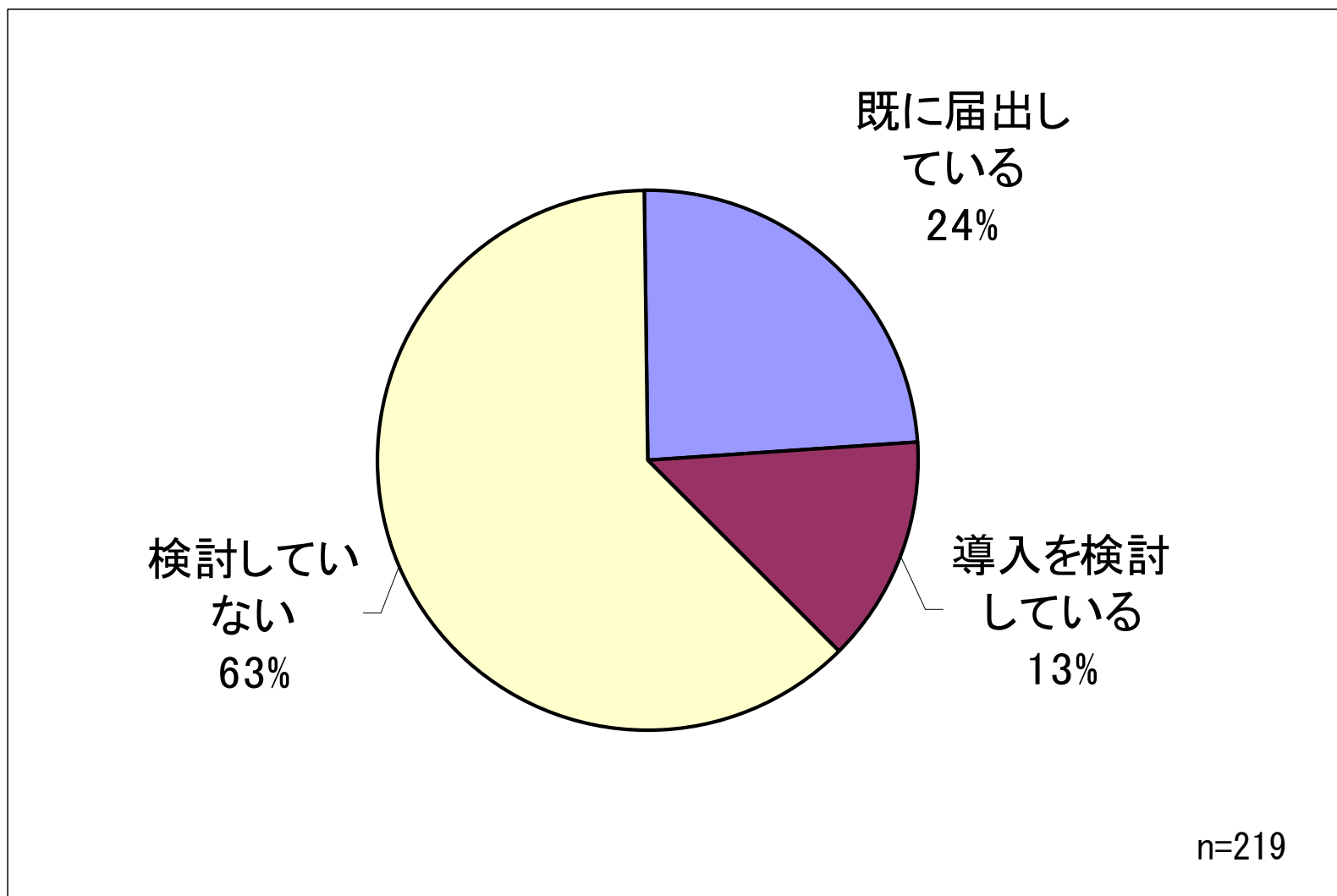
DPCの導入について



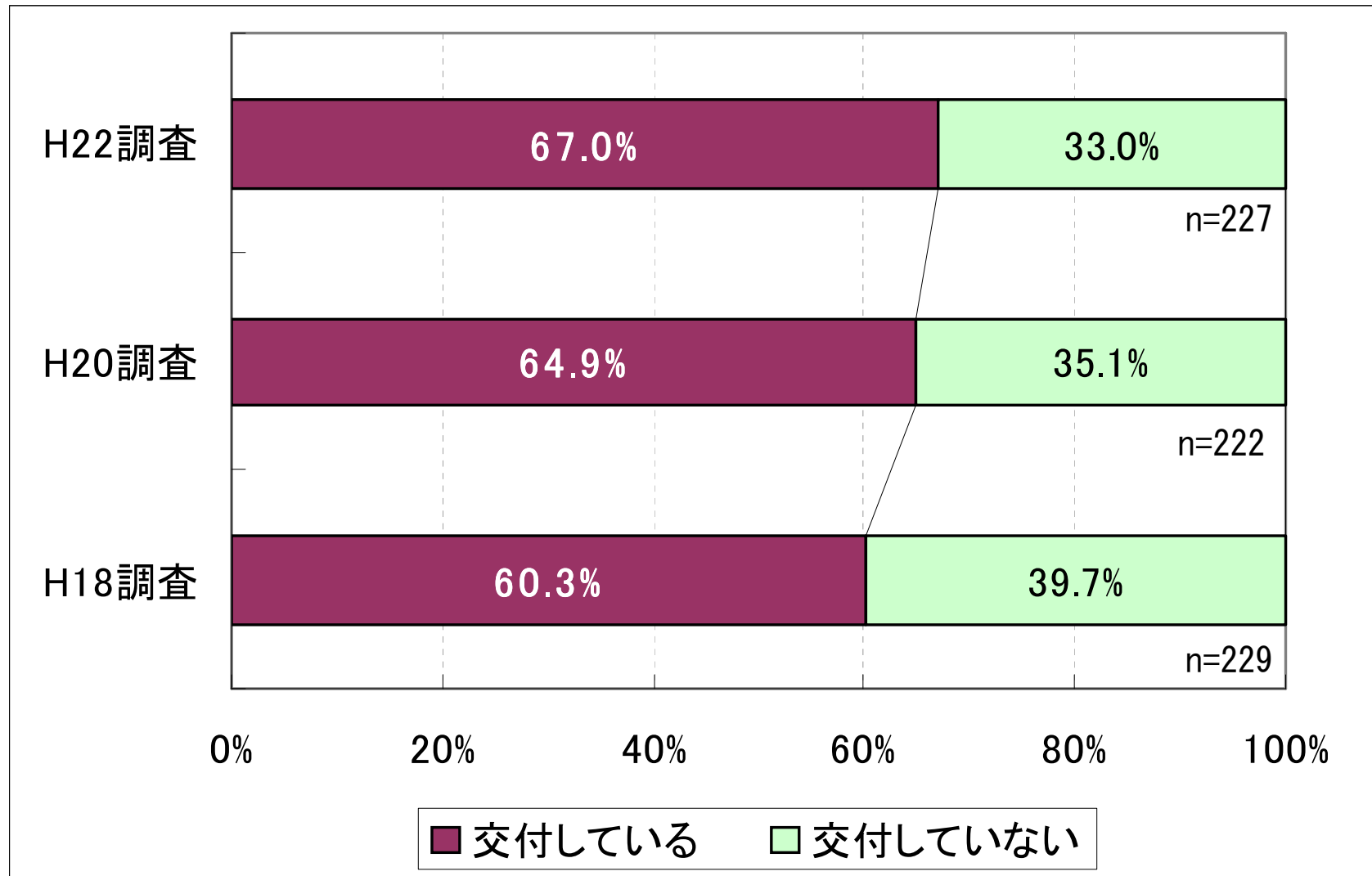
DPCの導入(検討を含む)に伴うGEの使用について



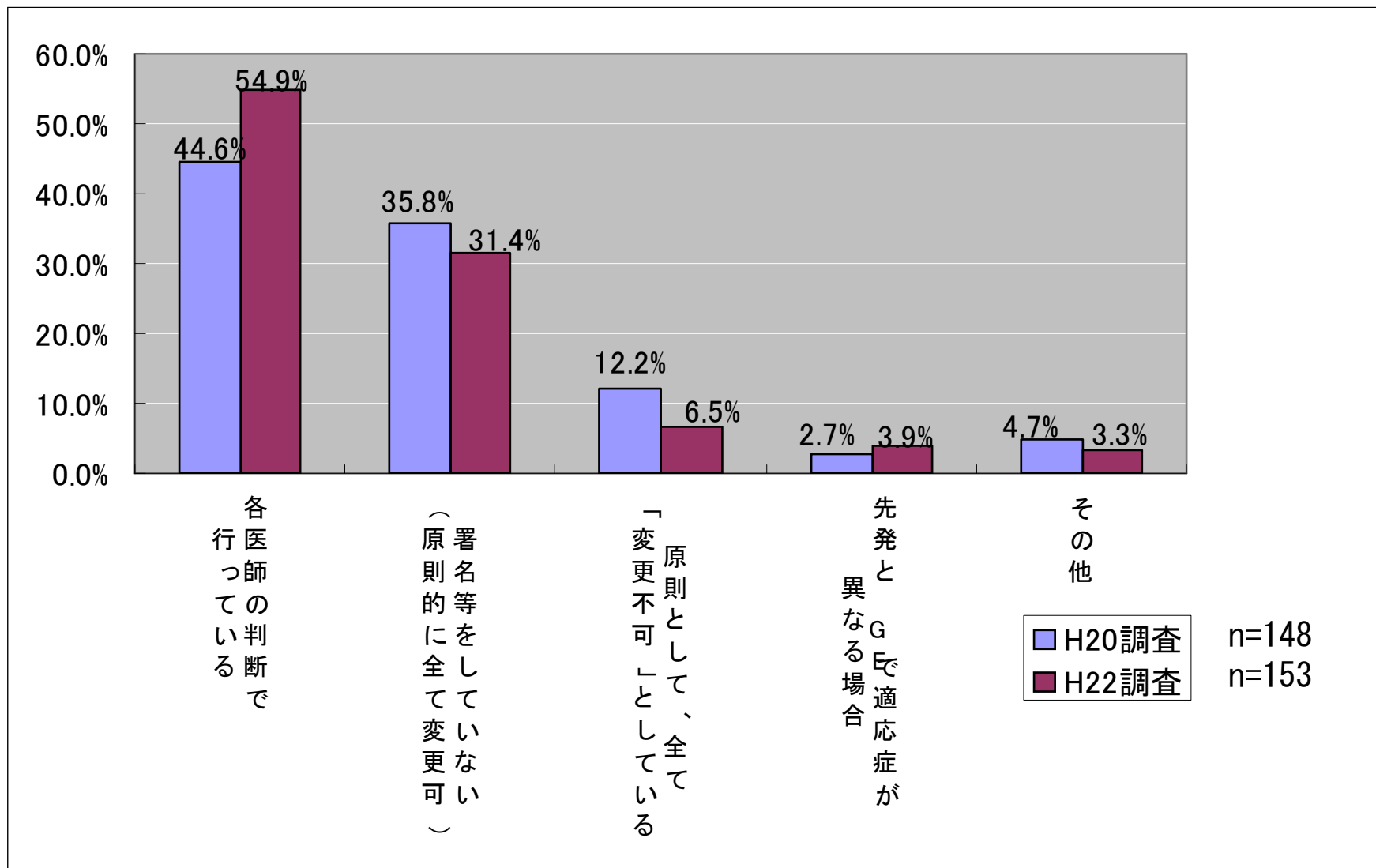
「後発医薬品使用体制加算」の届出について



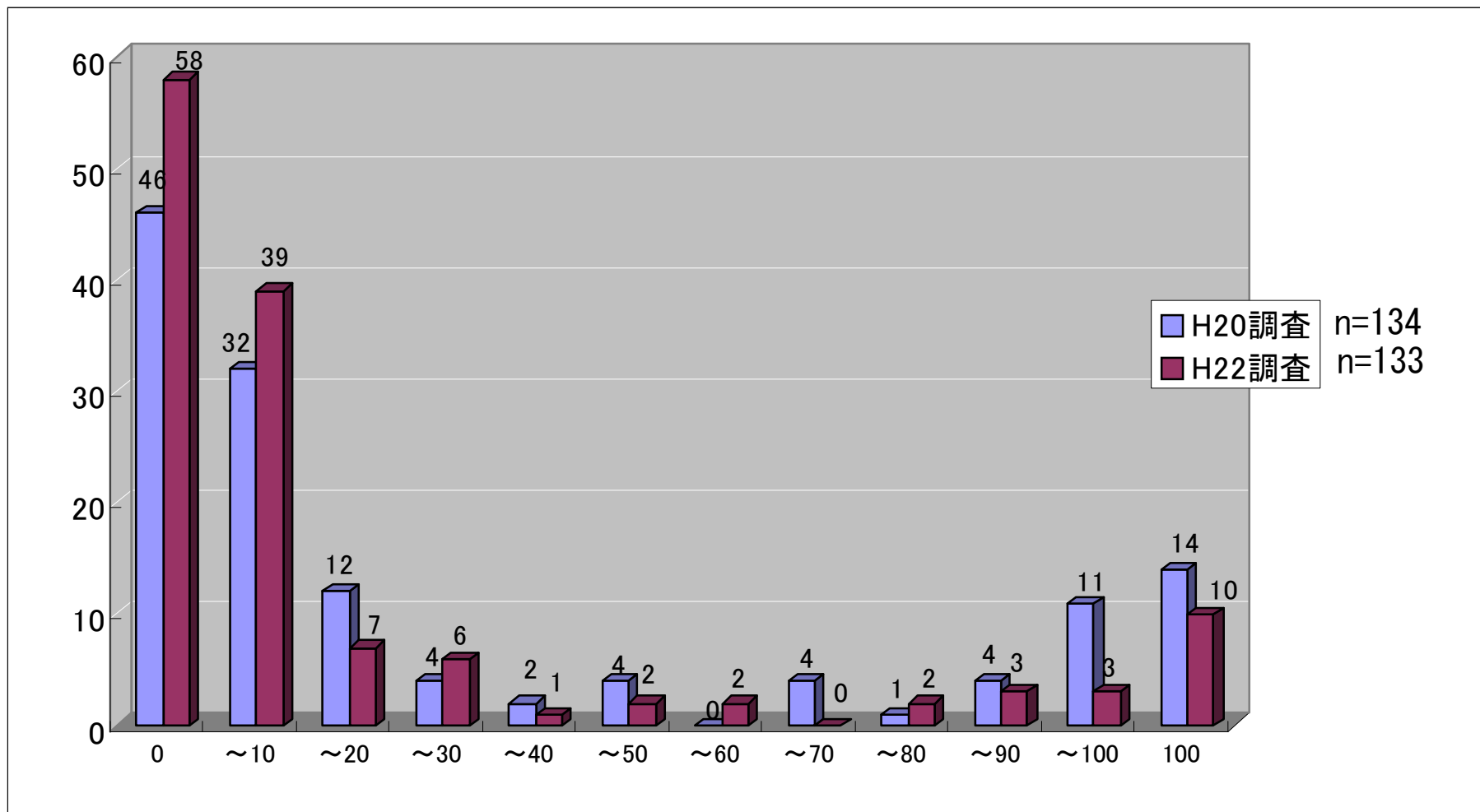
院外処方せんについて



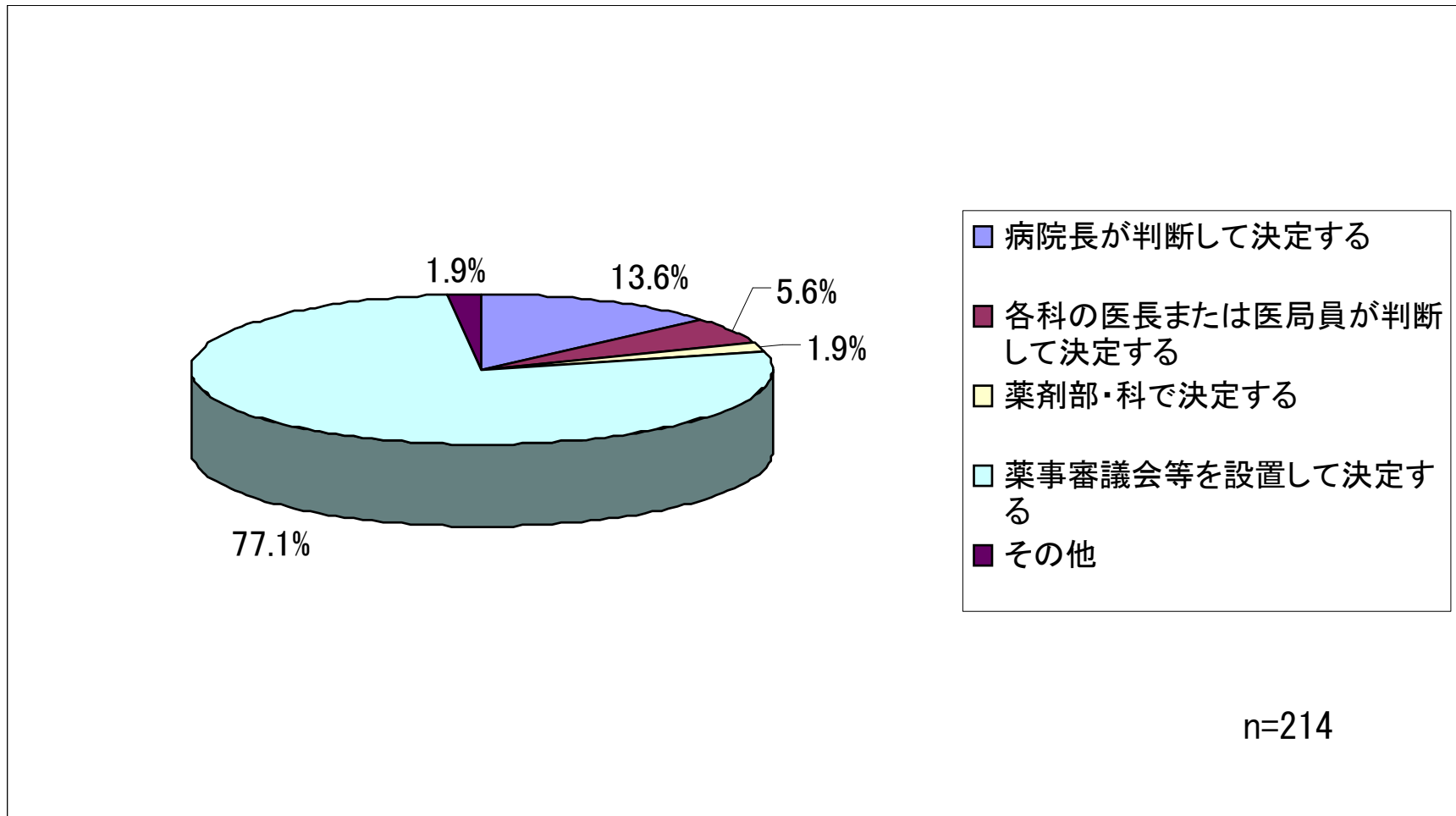
ジェネリック医薬品への「変更不可」の署名について



ジェネリック医薬品への「変更不可」の署名率

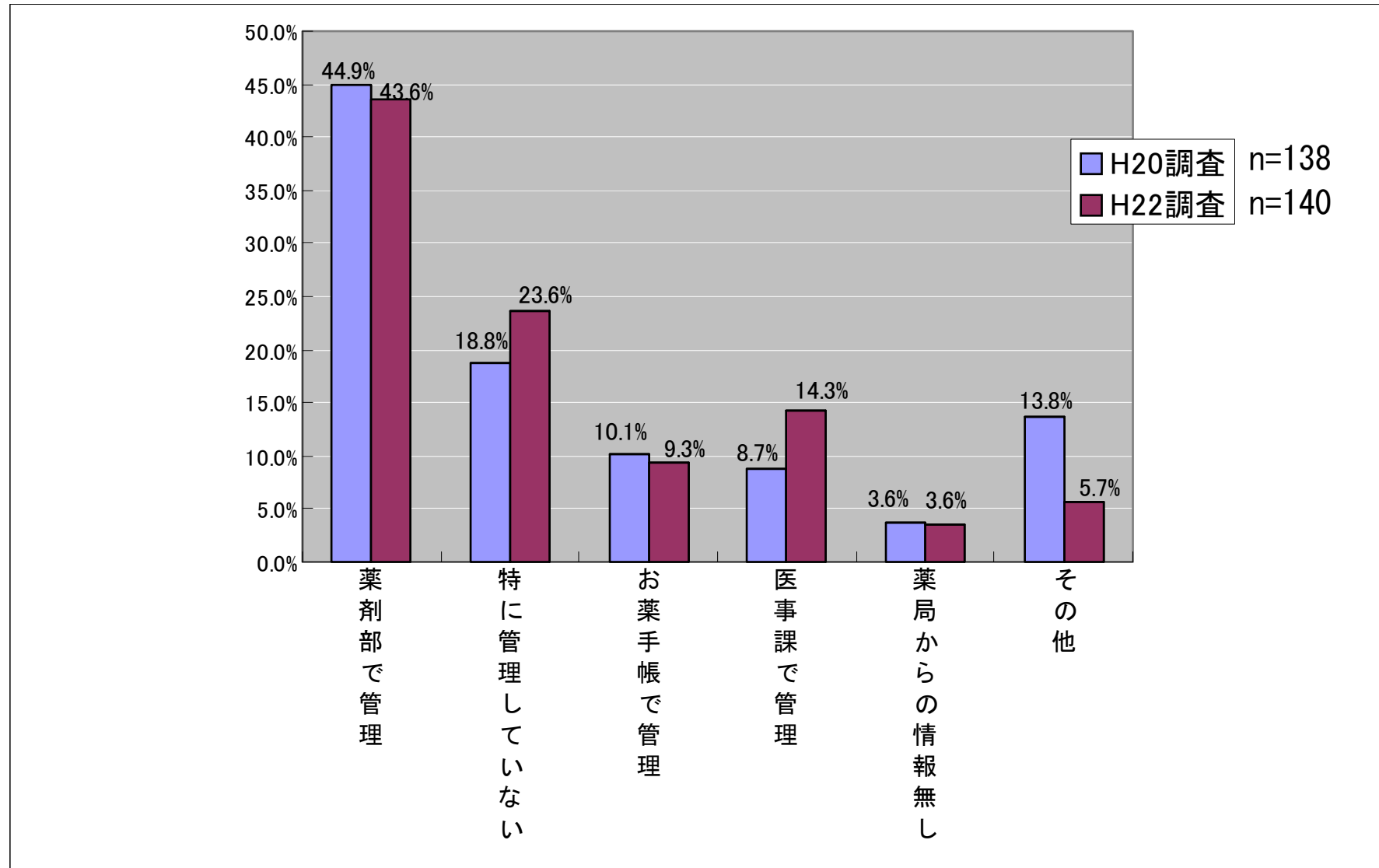


医薬品の採用の決定方法

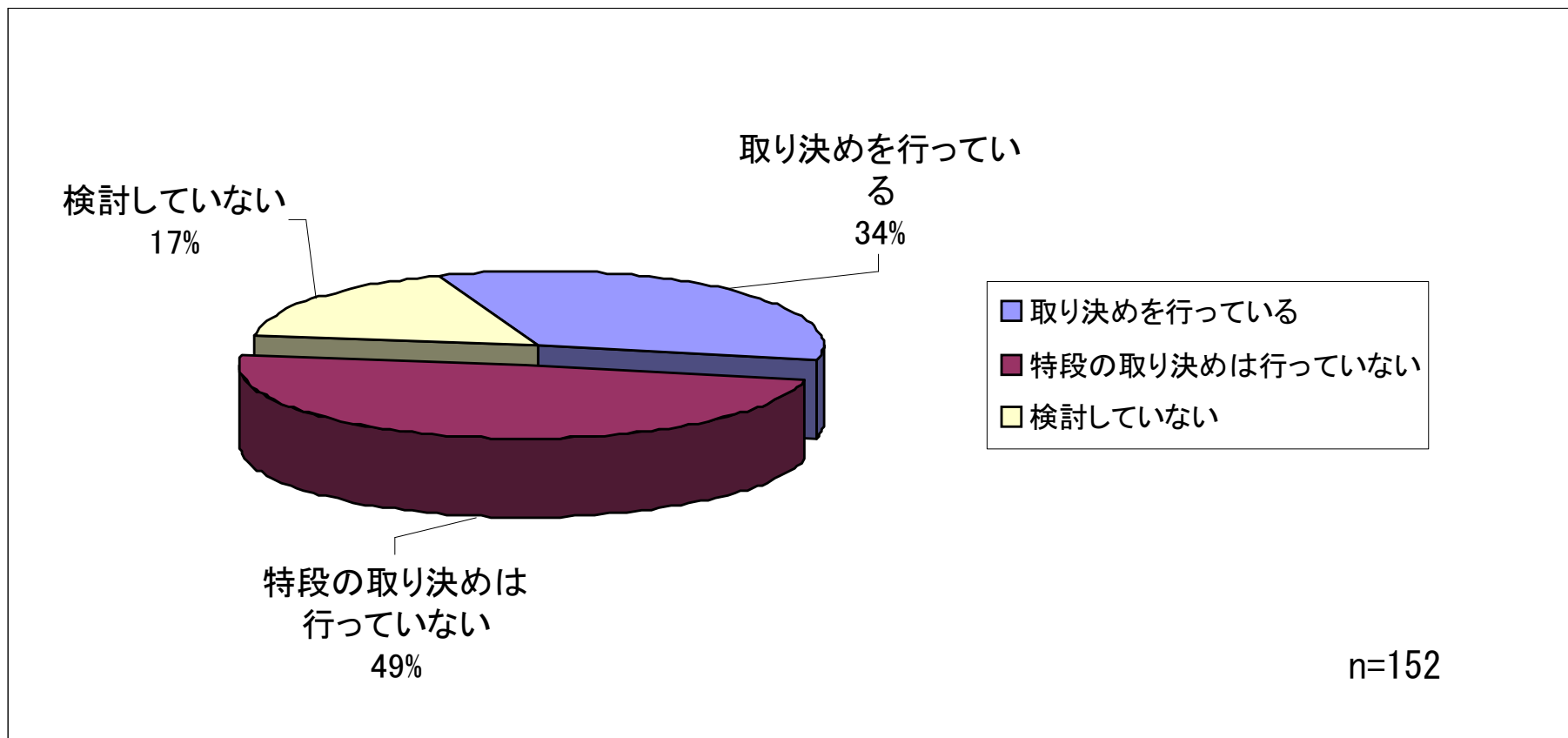


※その他：医局会の決定、副院長が決定

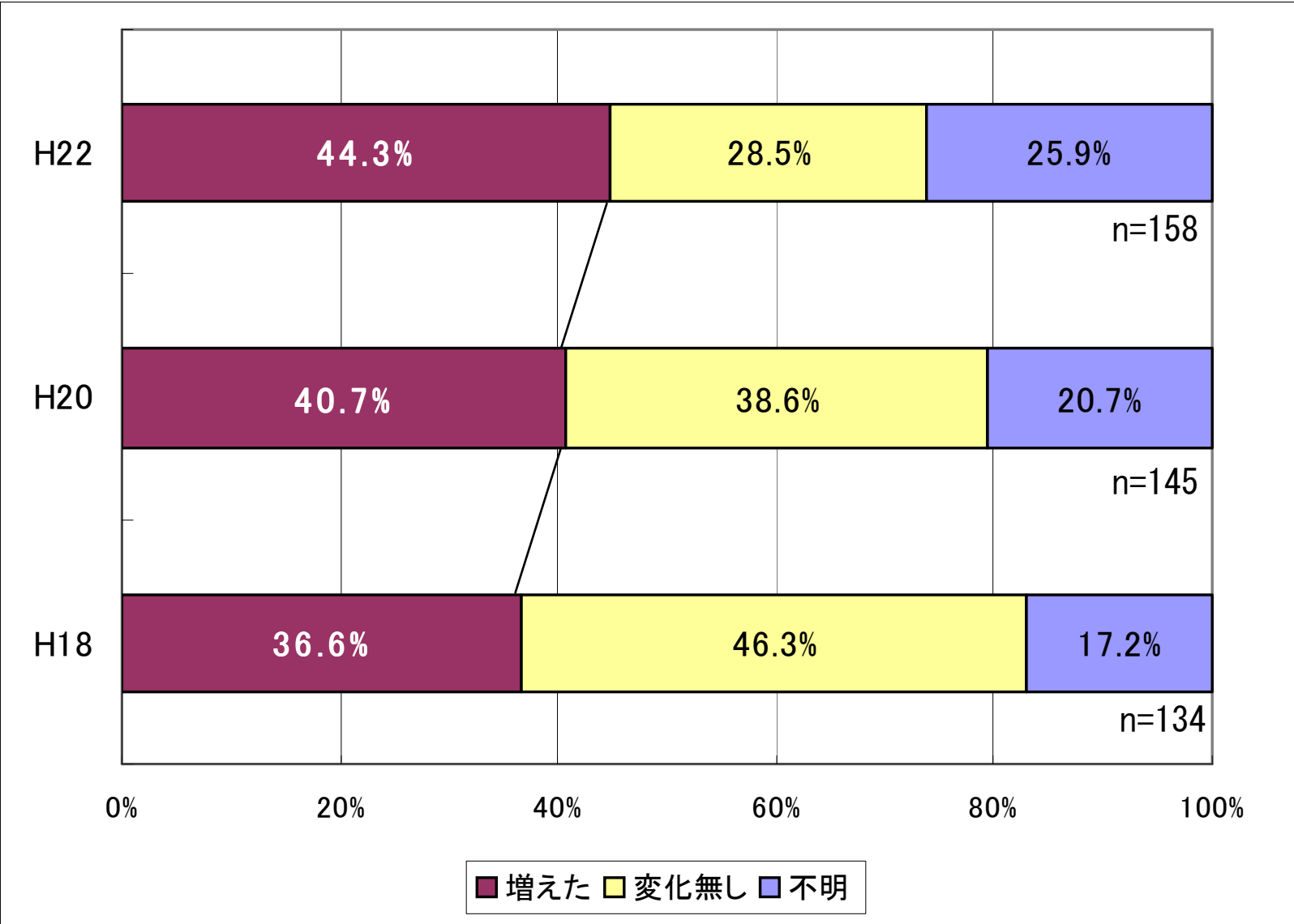
薬局からのジェネリック医薬品への変更に係る情報提供について



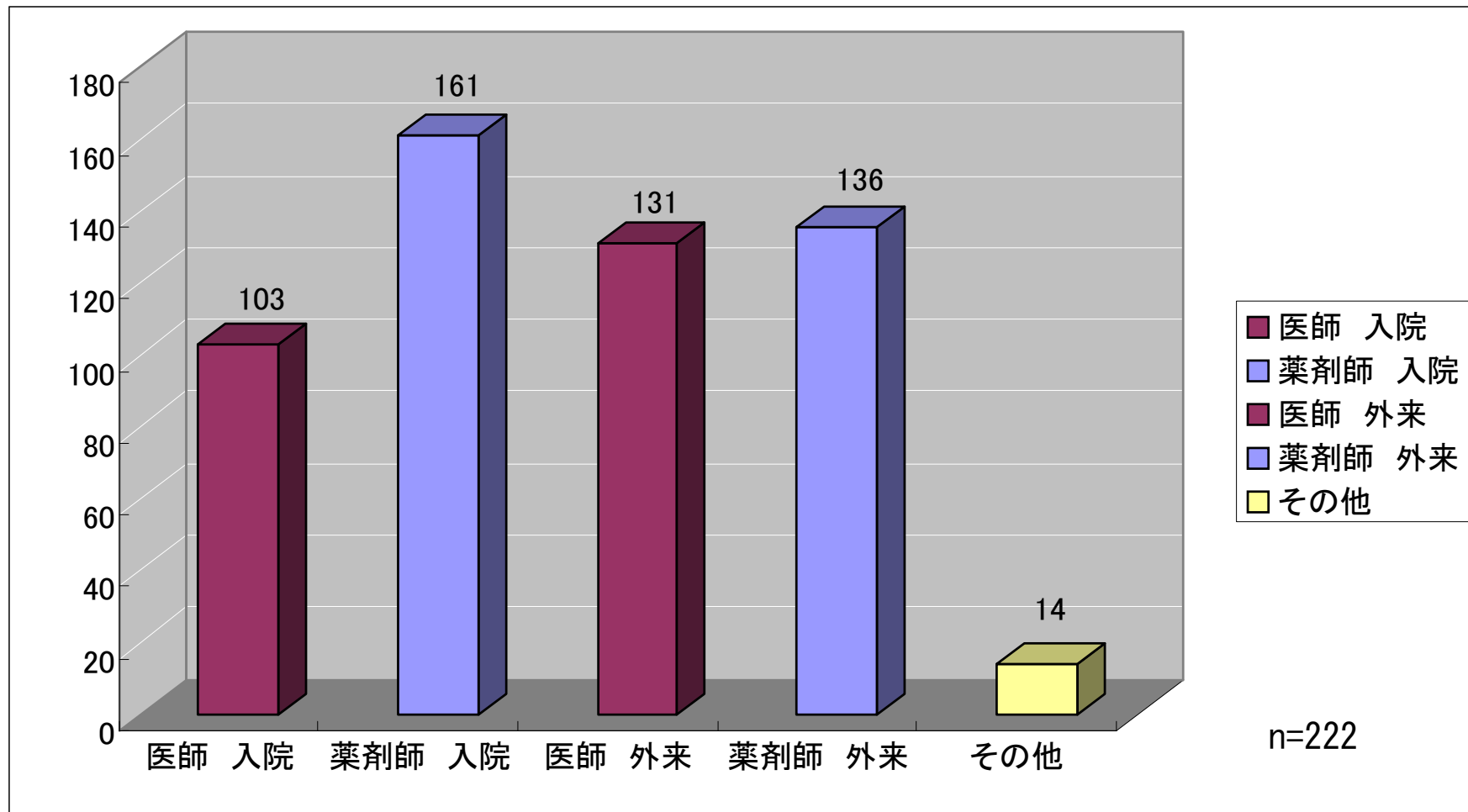
薬局との調剤したGEの銘柄や情報提供の要否、方法、頻度等についての取り決めについて



院外処方でGEを希望する患者について



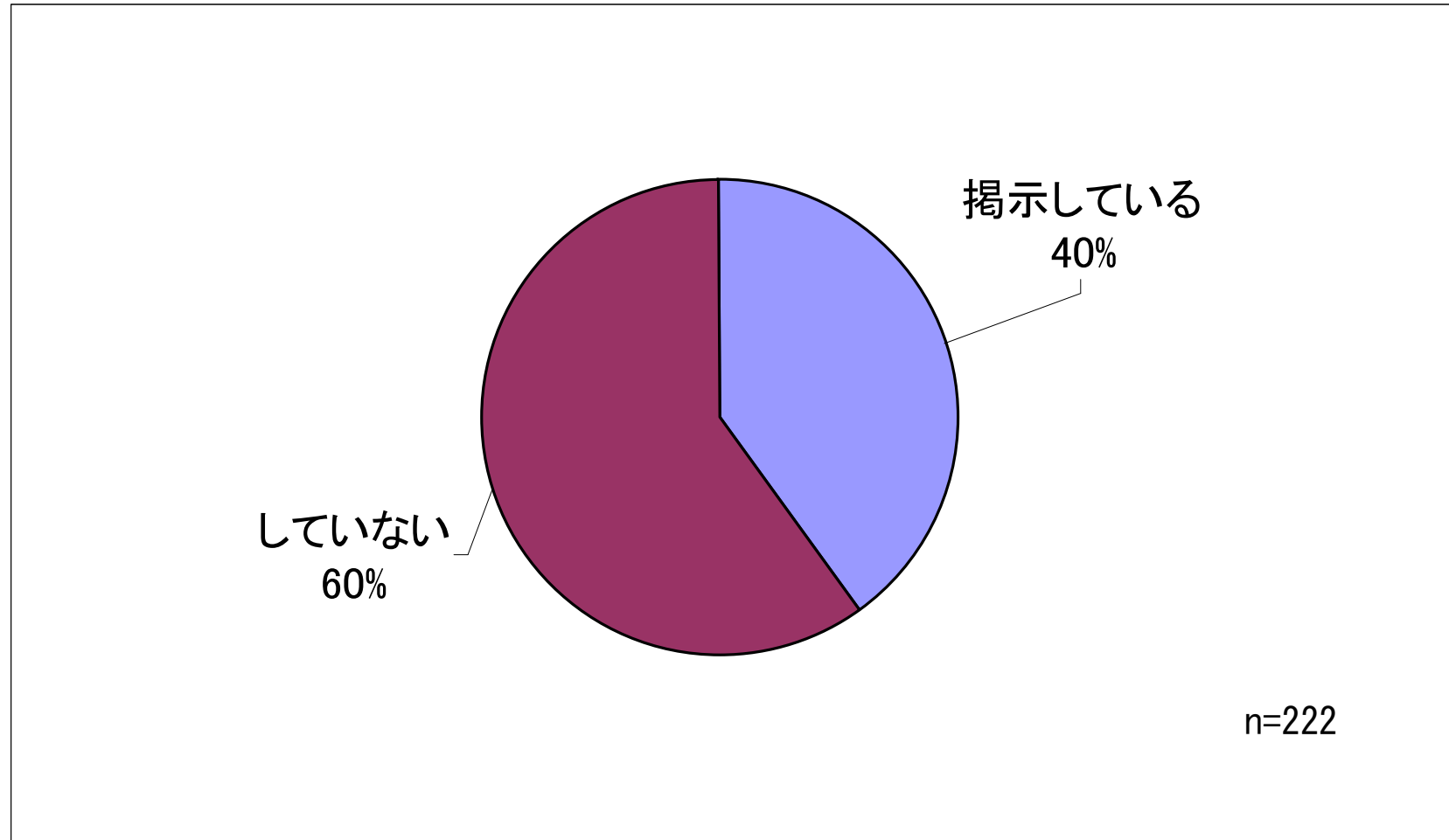
GEについて、患者から説明を求められた時の説明について



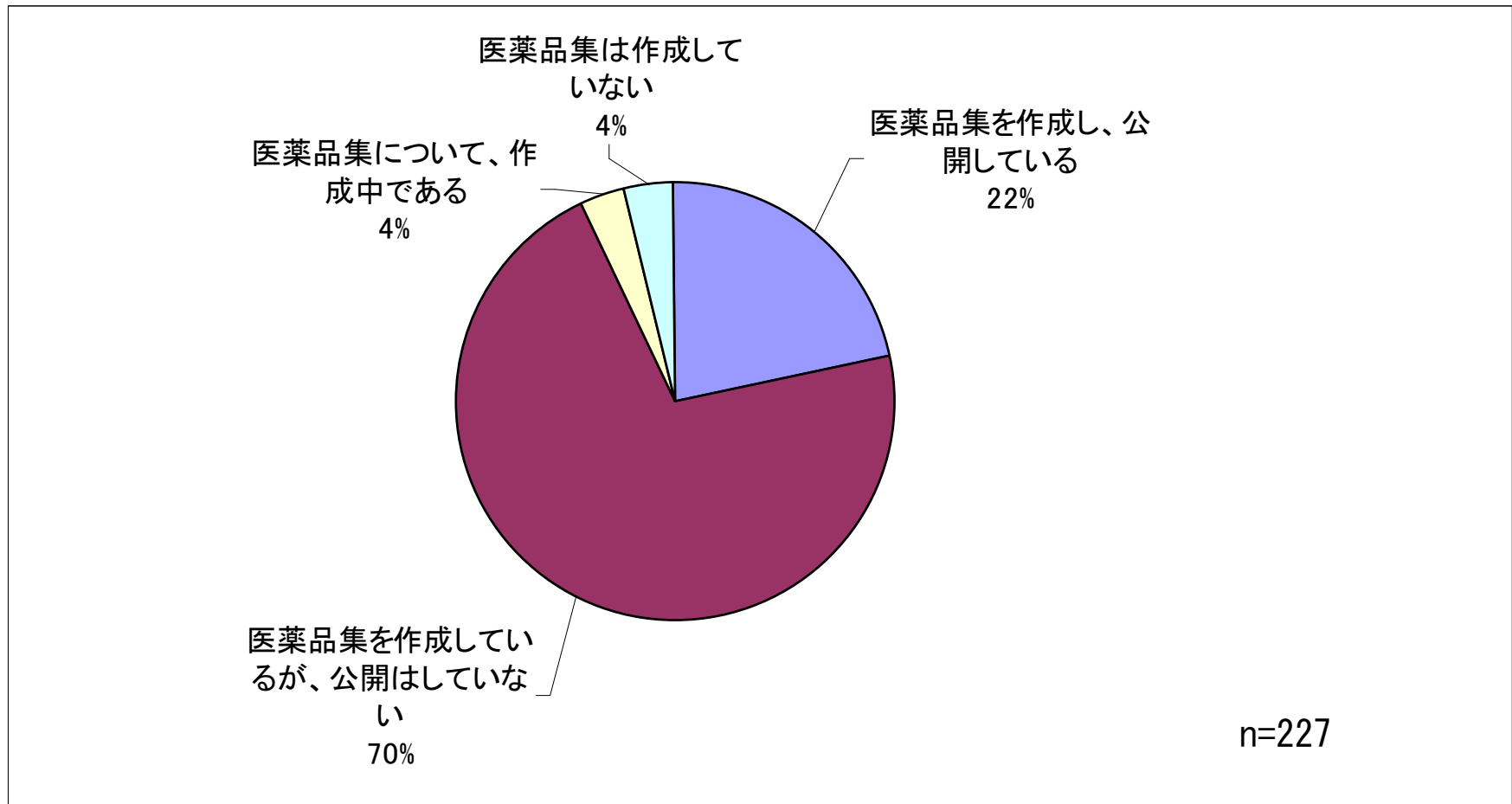
※複数回答

※その他：医事課、特に決めていない、聞かれた部署、これまでに聞かれたことはない等

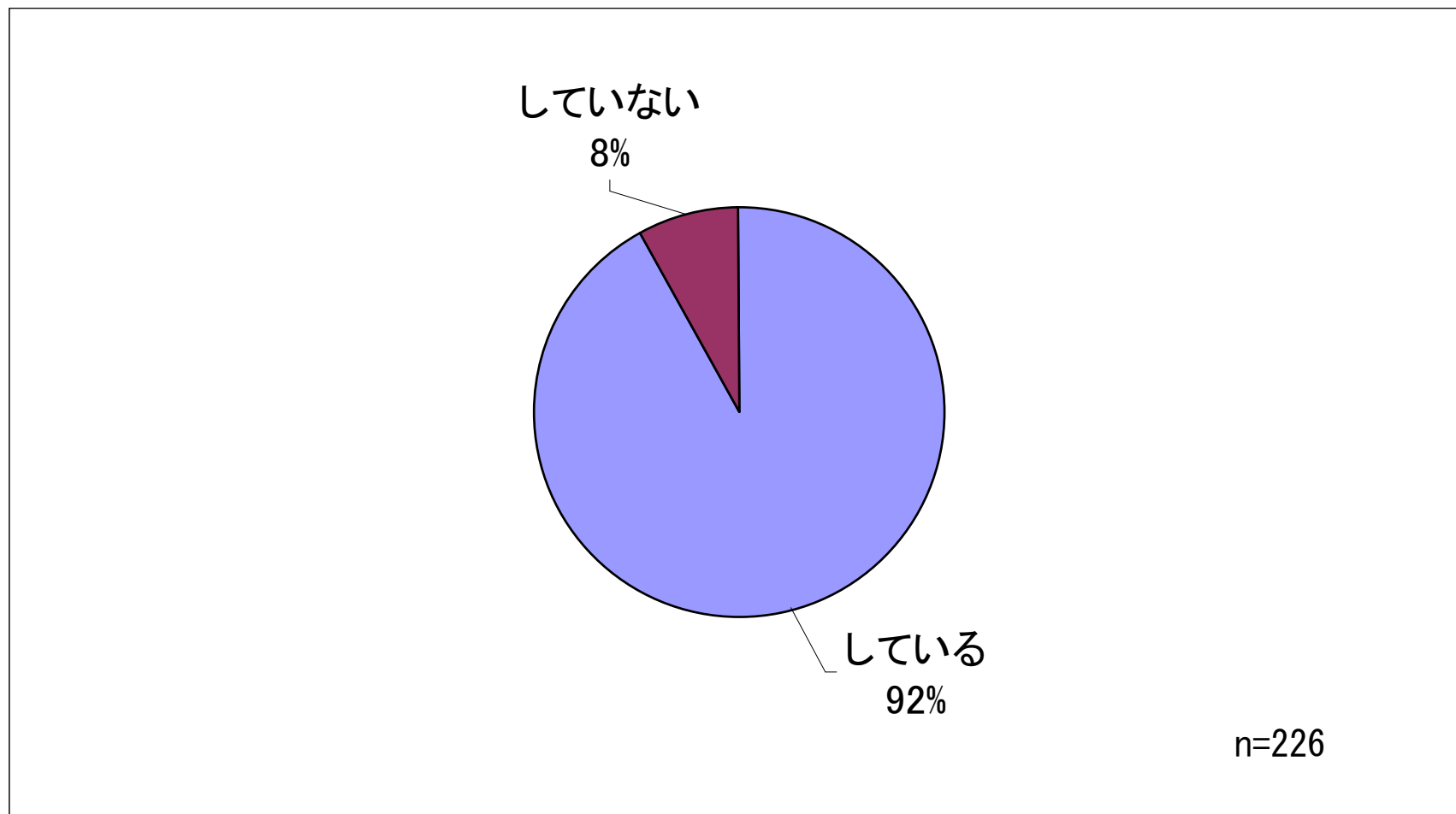
GEについてのポスター等の院内での掲示について



医薬品集を作成、公開について



患者が持参した「お薬手帳」の活用について



GEに係る問題事例や、GEに対する御意見等

◆GEの品質等に関すること

- 医薬品の情報が少ない
- メーカーにバラ錠や小包装の設定を必ずさせてから認可して欲しい
- 発売する時点で、先発医薬品と効能・効果、適応症を全て一緒にするべきだと考えます。
- GEに切り替えたところ、検査値が悪化。先発品に戻したら正常値へ戻った(メーカーへは報告済み)
- すべてのGEが同等との評価が難しい(一部のGE)
- GEメーカーによっては、錠剤鑑別のための刻印が似ている(アルファベットは同じで数字のみ違うなど)。安全対策上、やや心配。

◆GEの供給、在庫に関すること

- GEメーカーは製造中止になる薬剤が多いので困る
- GEが販売中止の場合、他のGEへ切り替えることは難しい
- GEは返品を受け付けてくれにくい
- 患者が先発医薬品を希望したため、その患者のためだけに先発医薬品を購入するが、退院後、不良在庫になってしまう

GEに係る問題事例や、GEに対する御意見等

◆説明に関すること

- 特に高齢の患者は、GEのメリットよりも、名称が変更されることへの不安が大きいと感じている。日頃の対応とフォローが重要であると感じている。
- 全ての医薬品にGEが有るわけではないことを理解していない患者が多い。
- 一般名は、医療従事者には判りやすくとも患者さんにとっては名前が長くなり、ご自分のお薬の名前が覚えられなくなったと言われる方が増えた。
- 先発医薬品と、あまりに外観が違いすぎると、それだけで先入観から、効かないと訴えられる方が増えました。
- GE推進のチラシを患者は理解せずに持ってくる。説明すると、特にGEへの変更の意志はないことが多い。

◆院外処方に関すること

- 医師による変更不可の指示があるにもかかわらず、患者が薬局でGEを希望し、問い合わせがあるケースがある。
- 医師より、薬局によりGEの銘柄が異なっており、不安の声を聞かれる。
- 変更不可の署名があるにもかかわらず、変更していたケースがあった。
- 変更の際、他の薬剤のGEで調剤されたことがあった。調剤薬局でのGE変更に伴い、説明が不適切であるため、患者は強要されたと感じる説明がある

GEに係る問題事例や、GEに対する御意見等

◆その他

- GEが発売されている先発医薬品が効能・効果を追加して再審査期間の設定が設けられる場合、その期間を短くするような体制はとれないものか。
- 先発医薬品メーカーにも、安価な抗がん剤の開発に取り組んで欲しい。
- ジェネリック医薬品を使用することで、ARB等の高価な新薬を積極的に使える。
- オーダリングシステムのマスター管理を薬剤師が行っているが、ジェネリック医薬品が増えて收拾がつかない。
- 薬価を統一して欲しい。
- GE発売に合わせて、先発医薬品メーカーから長期の使用成績調査の依頼やネガティブキャンペーンを行うことがある。
- 行政がGEの安価のみをアピールすると、現場では困惑することが多い。
- 製薬メーカーは、問題発生時のマネジメントを強化して欲しい。